

科目名	栄養学		
担当教員	豊田靖子		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後期	1	8
履修目的・授業概要			
<p>リハビリテーションを行う場合、栄養状態によりその成果は大きく左右される。特に高齢者や障害者において栄養管理は重要な評価項目である。この講義の目的は運動と栄養、または生活習慣病と食事制限に関する知識を深めることである。</p>			
到達目標			
<p>低栄養状態の対象者に適切に対応できる。 生活習慣病の対象者に適切に対応できる。</p>			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3	栢下 淳	医歯薬出版	

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	豊田
2	5大栄養素と人体への役割	豊田
3	運動時の栄養	豊田
4	フレイル、サルコペニア等	豊田
5	メタボリック症候群（糖尿病、高脂血症等）	豊田
6	心疾患（高血圧、慢性心不全）	豊田
7	腎疾患	豊田
8	試験	豊田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	臨床薬学		
担当教員	中山 恒 結城 幸一		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後期	1	8
履修目的・授業概要 臨床における薬剤の効果を理解するために、主な薬物の特徴、作用機序を学ぶ。			
到達目標 ・代表的な薬物の作用・副作用を理解する ・各疾患・症状に使用する薬物を知り、その働き方を理解する			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験			
学生へのメッセージ 疾患の治療、症状の緩和のためにさまざまな薬物が使用されます。代表的な薬物を紹介しますので、「薬」の基礎を習得して下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
はじめの一步の薬理学 第2版	石井邦雄・ 坂本謙司	羊土社	2900円＋税

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション（薬の概念・歴史など）	中山
2	薬の投与と吸収、薬の作用・副作用	中山
3	脳・神経系に作用する薬物	中山
4	循環器疾患・血液疾患における薬物	中山
5	呼吸器疾患・消化器疾患における薬物	結城
6	代謝性疾患における薬物	中山
7	疼痛緩和・炎症・解熱に用いる薬物	中山
8	試験	中山
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	救急救命		
担当教員	鳴海 繭花 畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
4年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
急変時には、医療スタッフが協働しながら救急対応を行います。医療施設以外でも公共施設、交通機関、職場、学校などでも救急対応が必要なことがあります。授業では、不良の事故や急病に対する応急手当の方法、院内急変時対応について学習していきます。			
到達目標			
1.救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れについて理解できる。 2.心肺蘇生法の基礎知識と一次救命処置の実際を理解できる。 3.出血の種類と止血の手順を理解できる。 4.院内急変時の対応について理解できる。			
授業の形式・方法			
講義、演習、グループワーク			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
※不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
授業を通じて、救急救命についての基礎的知識・技術を習得し、興味関心を高め、いざという時に適切な対応を実践できる人が増えていくことを願います。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
資料配布します			

コマ	履修内容	教員
1	わが国における救急医療体制	鳴海
2	救急患者・家族の特徴	鳴海
3	主要病態に対する治療処置 総論	鳴海
4	救急対応の考え方 急病とは	畑中
5	初期対応の流れについて 心肺蘇生法の基礎知識	畑中
6	一時救命処置の知識 出血の種類と止血の手順	畑中
7	一時救命処置の実際 止血法の実際	畑中
8	試験	鳴海 畑中
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	社会福祉論		
担当教員	稲積 圭一		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後期	1	8
履修目的・授業概要			
我が国における福祉の動向を捉え、医療との関りを中心に社会福祉に関する法制度、諸問題などについての理解を深める。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会での福祉的な問題を理解し、それらに対する社会保障その他の制度を理解する。 ・社会福祉援助技術について理解する。 ・社会福祉の理念を理解する。 ・社会保障制度の方法と機能、問題点を理解する。 			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
社会福祉、社会保障制度はニュースや新聞等でも多く触れられている身近な話題であり、自分たちの生活にも直接関わってくる問題なのだとすることを理解してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	社会保障制度の社会に与える影響と民間保険等との関係について学ぶ	稲積
2	社会保障制度と財政問題 日本の財政問題と社会保障制度について学ぶ	稲積
3	貧困と公的扶助 日本の公的扶助制度を学ぶ。	稲積
4	社会保険の特徴	稲積
5	年金制度の概要	稲積
6	医療保障制度の概要 医療保障制度の概要を学ぶ。	稲積
7	高齢者医療と介護 後期高齢者医療制度や介護保険などの高齢者を支える仕組みの概要を理解する。	稲積
8	試験	稲積
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	理学療法制度論		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	8
履修目的・授業概要			
現在の制度と過去の制度を比較し、現在の医療・福祉分野における問題点を把握する。 また、身分法を理解することにより我々が何ができて何ができないか理解する。			
到達目標			
我々が置かれている立場を理解し制度上の可能性と限界を理解し、説明ができる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
保健医療福祉制度に興味をもって取り組んでほしい			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	吉田
2	医療保険と介護保険	吉田
3	保険制度の限界	吉田
4	予防医学とPT	吉田
5	社会保障制度の概要	吉田
6	身分法	吉田
7	医師法・その他	吉田
8	試験	吉田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	理学療法管理学		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	8
履修目的・授業概要			
理学療法サービスを適切にかつ安全に提供するための方策について学ぶ。			
到達目標			
1.理学療法士に求められる管理・マネジメントについて理解する。 2.社会保障制度およびそのマネジメントに必要な能力について理解する。 3.リスクマネジメントについて理解する。			
授業の形式・方法			
講義形式			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
近年、理学療法士としての知識や技術の習得はもちろん、その知識や技術をいかに対象者に提供かというマネジメント能力も求められてきている。このことを肝に銘じ、主体的に学んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	総論	北村
2	病院の分類、チームケアについて	北村
3	社会保障について	北村
4	診療・介護報酬について	北村
5	保健・医療・介護・福祉の連携について	北村
6	業務管理、情報管理について	北村
7	リスク管理、感染症管理、職業倫理について	北村
8	試験	北村
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	義肢装具学実習		
担当教員	菊川 拓郎		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	23
履修目的・授業概要			
義肢の基本的事項と仕組み、特徴について理解する 義肢の各部位の役割について理解する 術前・術後の理学療法評価の実施方法を理解する 目的を説明できる対象者の残存機能、社会的背景を十分配慮した処方の方の理解する			
到達目標			
医学的事項・社会的事項を含めた理学療法評価から適切な義肢の選択について理解できる。 選択した義肢と今後の生活を理解できる。			
授業の形式・方法			
講義22コマ・試験1コマ。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、60点以上を合格とする			
学生へのメッセージ			
臨床場面では義肢患者様と関わる機会があります。そのため義肢利用に必要な知識を理解し、生活場面における義肢の重要性を学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
義肢装具学	細田多恵	南江堂	7000

コマ	履修内容	教員
1	義肢総論～ 義肢の目的・役割 切断・義肢の歴史 切断の要 因・原因について	菊川
2	断端管理～ 断端管理の目的 切断から義肢装着 までの流れ 断端管理の特徴と利点・ 欠点	菊川
3	大腿切断ソケットについて ソケットの種類 シリコンライナーに ついて	菊川
4	足部と足継手について 足部の種類と特徴、利点・欠 点	菊川
5	大腿切断ソケット 大腿義足の概要 ソケットの特徴・機能	菊川
6	膝継手について 膝継手の分類 機能・適応 利点・欠点について	菊川
7	ベンチアライメント・スタティックアライ メント・ダイナミックアライメントについ て	菊川
8	異常歩行～義足患者の歩行の特徴と原因	菊川
9	異常歩行～義足患者の歩行の特徴と原因	菊川
10	股離断の特徴 股義足について 股離断患者の歩 行	菊川
11	義手の種類と特徴 義手の構成部品	菊川
12	義手のチェックアウト 義手患者の評価	菊川
13	切断者の評価 理学療法評価の目的 問診のすすめ方 全身状態の評価	菊川
14	切断者の評価 形態計測・関節可動域検査・筋 力検査など	菊川
15	切断者の日常生活動作 切断者の動 作指導方法切断者の日常生活動作指導方法 と注意点	菊川

コマ	履修内容	教員
16	ギブス包帯による断端採型方法	菊川
17	ギブス包帯による断端採型方法	菊川
18	ギブス包帯による装具採型方法	菊川
19	ギブス包帯による装具採型方法	菊川
20	切断患者の症例に基づくグループワーク	菊川
21	切断患者の症例に基づくグループワーク	菊川
22	切断患者の症例に基づくグループワーク	菊川
23	試験	菊川
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	

科目名	物理療法		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	前	1	15
履修目的・授業概要 理学療法には運動療法と物理療法がある。 その物理療法を学ぶ。そして対象者の疾患を理解し、各物理療法の特長や生理学的作用を理解する。			
到達目標 対象者にあった物理療法を選択できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ 復習をしっかりとってください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
ゴールドマスターテキスト物理療法	柳澤健	メディカルビュー	3600

コマ	履修内容	教員
1	総論	吉田
2	物理療法の対象...疼痛	吉田
3	物理療法の対象...炎症	吉田
4	物理療法の対象...浮腫、循環障害	吉田
5	物理療法の対象...運動障害	吉田
6	物理療法の対象...神経障害	吉田
7	物理学...温熱 とその生理学的作用	吉田
8	物理学...光線 とその生理学的作用	吉田
9	物理学...寒冷 とその生理学的作用	吉田
10	物理学...電気 とその生理学的作用	吉田
11	物理学...水 とその生理学的作用	吉田
12	物理学...牽引 とその生理学的作用	吉田
13	その他生理的作用	吉田
14	物理療法の効果及びリスク管理、バイオフィードバック	吉田
15	試験	吉田

科目名	物理療法実習		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	15
履修目的・授業概要 物理療法機器の使用方法を確認し実際に体験する。			
到達目標 物理療法治療を実施できる。			
授業の形式・方法 講義と実習			
成績評価の方法・基準 試験と出席率と授業態度 (3 : 2 : 5)			
学生へのメッセージ 実習時間は真面目に取り組んでください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
ゴールドマスターテキスト物理療法	柳澤健	メディカルビュー	3600

コマ	履修内容	教員
1	実習概要	吉田
2	腰椎牽引、頸椎牽引	吉田
3	ホットパック・パラフィン浴	吉田
4	アイスパック、アイスマッサージ	吉田
5	実習（上記物療機器）	吉田
6	実習（上記物療機器）	吉田
7	低周波	吉田
8	極超短波・超短波	吉田
9	赤外線、紫外線	吉田
10	超音波	吉田
11	過流浴、気泡浴	吉田
12	実習（上記物療機器）	吉田
13	実習（上記物療機器）	吉田
14	マッサージ	吉田
15	試験	吉田

科目名	老年期理学療法		
担当教員	北村 勝		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	前	1	15
履修目的・授業概要 高齢者に特徴的な症候・疾患について理解し、理学療法実施の注意点や治療方法の適応について考える。			
到達目標 臨床時に運動療法やリスク管理ができるように思える。			
授業の形式・方法 講義、グループワーク			
成績評価の方法・基準 グループワークと試験（3：7）			
学生へのメッセージ 自分が臨床でそのような患者様に出会った時にどうするか考えながら講義、グループワークを進めてください			
＜教科書・参考書＞			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学療法学・作業療法学 老年学（第3版）	大内尉義	医学書院	5060

コマ	履修内容	教員
1	高齢者とは 総論①	北村
2	高齢者とは 総論②	北村
3	高齢者との接し方	北村
4	高齢者に特徴的な症候と疾患－老年症候群①	北村
5	高齢者に特徴的な症候と疾患－老年症候群②	北村
6	高齢者に特徴的な症候と疾患－グループワーク①	北村
7	高齢者に特徴的な症候と疾患－グループワーク②	北村
8	高齢者に特徴的な症候と疾患－グループワーク③	北村
9	高齢者に特徴的な症候と疾患－グループワーク④	北村
10	グループワーク発表①	北村
11	グループワーク発表②	北村
12	グループワーク発表③	北村
13	高齢者のリハビリテーション	北村
14	まとめ	北村
15	試験	北村

科目名	理学療法特論		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵 理 菊川 拓郎 小橋 泰文 手代木みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	通	2	30
履修目的・授業概要 今まで学んできた集大成として、その知識の確認と理学療法分野への応用を考える。			
到達目標 卒業臨床に出ても困らないように知識の確認と問題に直面した場合の解決方法を学ぶ。			
授業の形式・方法 グループワークを中心に講義、実技を適時加える			
成績評価の方法・基準 試験とグループワークの態度や発言内容 (8:2)			
学生へのメッセージ これまでに習ってきた知識を総動員して根気強く取り組んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1~5	基礎分野 解剖学・生理学・運動学・病理学	各担当
6~10	臨床医学分野 内科学・整形外科学・神経内科学・精神医学・小児科学	各担当
11~13	評価分野 検査法・特殊検査・統合と解釈	各担当
14~15	義肢装具学 義肢・装具・自助具・補助具	各担当
16~17	ADL	各担当
18~19	物理療法	各担当
20~22	神経系の理学療法	各担当
23~25	内部疾患の理学療法	各担当
26~28	運動器疾患の理学療法	各担当
29	地域理学療法	各担当
30	試験	各担当

科目名	卒業研究		
担当教員	吉田 幸史 笠井 理菜子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	前	1	15
履修目的・授業概要 卒業研究実習に入る前に必要な知識を学ぶ。			
到達目標 卒業研究がスムーズに行える。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 課題提出内容と講義態度を総合的に判断 (5 : 5)			
学生へのメッセージ 卒業研究実習がスムーズに進むように基本は理解してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
リハビリテーション統計	山本澄子	南江堂	3400

コマ	履修内容	教員
1	総論	吉田
2	研究展開①	吉田
3	研究展開②	吉田
4	研究展開③	吉田
5	文献検索①	笠井
6	文献検索②	吉田
7	実験設計	吉田
8	データ解析①	吉田
9	データ解析②	吉田
10	データ解析③	吉田
11	データ解析④	吉田
12	発表①	吉田
13	発表②	吉田
14	論文の書き方①	吉田
15	論文の書き方②	吉田

科目名	地域理学療法学Ⅱ		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの最終的な目標は生活を再建することであり、急性期→回復期→慢性期→維持期と全ての過程において対象者の生活について考えることのできる理学療法士を目指す。そのために地域理学療法についての理解を深める。			
到達目標			
地域包括システムを理解し、理学療法士の役割を説明できる。			
授業の形式・方法			
講義、グループワーク			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
VTR等も使用しますが、ただ見たり聞いたりするだけではなく、PTには何ができてPTが何をすべきなのかをイメージして下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
地域理学療法学第4版	牧田光代(編)	医学書院	5170

コマ	履修内容	教員
1	地域理学療法概念	富永
2	介護保険制度	富永
3	地域理学療法展開	富永
4	生活環境の整備(福祉用具とバリアフリー)	富永
5	生活環境の整備(移動のための福祉用具)	富永
6	生活環境の整備(住宅改修の考え方)	富永
7	生活環境の整備(トイレ・浴室)	富永
8	生活環境の整備(グループ検討)	富永
9	生活環境の整備(グループ検討)	富永
10	介護予防	富永
11	転倒予防	富永
12	地域理学療法の実際	富永
13	事例検討	富永
14	まとめ	富永
15	試験	富永

科目名	生活環境論		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	8
履修目的・授業概要☑ 高齢者や障害者を取り巻く住環境について、理学療法士として必要な知識を深める。また、疾患・障害の特徴を捉えた住宅改修について理解する。			
到達目標☑ 1.介護保険制度と住宅改修について理解する。 2.住環境整備の実際について理解する。 3.疾患・障害に応じた住環境整備について理解する。			
授業の形式・方法☑ 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ 在宅で生活する対象者にきちんと住宅改修や福祉用具の選定についてアドバイスをできるように、しっかり学んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
福祉住環境コーディネーター 2級 公式テキスト 改訂6版	東京商工会議所		4950
OT/PTのための 環境整備論 第2版	野村 歡	三輪書店	4,840

コマ	履修内容	教員
1	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境	北村
2	介護保険制度と住宅改修	北村
3	住環境整備の実際（手すり・スペース）	北村
4	住環境整備の実際（トイレ・浴室）	北村
5	住環境整備の実際（台所・洗面所・寝室）	北村
6	疾患・障害別にみる住環境整備	北村
7	福祉用具	北村
8	試験	北村
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	総合臨床実習Ⅱ		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 菊川 拓郎 小橋 泰文 手代木 み なみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
4	前	7	315時間
履修目的・授業概要 理学療法教育の最終段階として実施されるもので、『理学療法業務の総合的な臨床学習』である。			
到達目標 ・実習指導者による指導，助言の下に，評価，治療計画，治療という一貫した治療行為が実践できる。 ・高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。			
授業の形式・方法 臨床実習			
成績評価の方法・基準 実習地評価と学内評価 (5 : 5)			
学生へのメッセージ 医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

令和5年5月15日～7月8日
(正味40日間×8時間=320時間)

①学内においてpre-OSCEとpost-OSCE、CBTを実施

②実習地において以下を実践する

- ・評価計画
- ・情報収集
- ・評価
- ・障害の理解
- ・問題点の抽出
- ・目標の設定
- ・治療計画の立案
- ・治療の実施
- ・再評価
- ・治療の変更
- ・サマリーの作成

③ 症例検討会において他の学生が経験した事を共有する

科目名	地域臨床実習		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 菊川 拓郎 小橋 泰文 手代木 み なみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	後	1	45時間
履修目的・授業概要 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割および他職種との連携の重要性を理解することを目的とする。また、介護保険制度についての理解を深めることも目的とする。			
到達目標 ・地域リハビリテーションにおける意義、理学療法士の役割、他職種の役割や関連する制度、社会資源について理解を深める。 ・各種施設、在宅における対象者の生活を支援するために必要な知識・技術について理解を深める。			
授業の形式・方法 臨床実習			
成績評価の方法・基準 実習地評価と学内評価 (5:5)			
学生へのメッセージ 地域リハビリテーションにおける理学療法士の重要性は年々高まっています。幅広い視点で対象者を支援することができるようその専門性を学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

令和5年7月24日～7月29日
令和5年7月31日～8月5日
上記どちらかの期間で実習する（正味5日間×8時間＝40時間）。
これに、実習前OSCE2時間、CBT1時間、実習後OSCE2時間を加えた45時間とする。

以下を実践する。

- ・地域リハビリテーションにおける理学療法の見学
- ・地域リハビリテーションにおける他職種の見学
- ・地域リハビリテーションにおける理学療法補助
- ・症例検討会において他の学生が経験した事を共有する